

Friends...ギターサークルカノン10周年に寄せて

10周年を迎えるギターサークルカノンからの依嘱を受けて2008年に作曲した作品です。作曲に当たっては10年間の時の重みにふさわしいよう、穏やかでクラシカルな気分のもの、そしてギターサークルカノンを象徴するような旋律を何か含めたいと思い着手しました。

曲はまず一人で奏される単旋律の歌から始まり、続いてその歌に呼応するように全メンバーが参加しハーモニーが広がっていきます。これは“集い”が誕生する様子をイメージしました。その後はルネサンス時代の音楽のようにそれぞれのパートが独自の旋律を歌いながら縦のハーモニーも作っていくというスタイルに進みますが、これも集いの中で影響しあうそれぞれ個性豊かなメンバーが、互いを認め、尊重しあいながら美しく豊かなものを創造していくイメージと重ねています。また曲中前半では頻りに転調が行われますがこちらは“時の流れ”のイメージ、それも今の時点から振り返って過去の出来事のあれこれを懐かしく思う…そんな気分を音にしました。

曲が半ばにさしかかるともう一度単旋律が現れるシーンがあります。単純な下降音形ですがこれはギターサークルカノンが生まれてすぐ、まだ初心者ばかりだった頃によく演奏した曲「パーセルのカノン」のメロディです。今となっては立派に難曲も弾きこなすギターサークルカノンですが、あの当時はこんなに易しい曲を弾くのも簡単に…とはいかず、よくがんばったものです。そして「こんなにシンプルでもみんなで音を重ねて作るハーモニーは美しく感動的なんだ」とメンバーたちが初めて実感したのもこの曲でした。以降ギターサークルカノンにとってお気に入りのレパートリーとなったとも思い出深い曲です。ただし、いまFriendsの曲中で奏されるこのメロディは昔の初心者サークルの頃の再現、感傷的な懐かしさではありません。10年の時を経て様々な経験を積み立派に育ったサークルがもう一度原点を見つめ新しい一歩を踏み出していくシーンとしました。ですからここではその成長を見せるがごとく「堂々と」「力強く」「輝かしく」弾くようにとf（フォルテ）の記号を書き込みました。以降、曲後半のセクションはこれからもギターサークルカノンがさらに未来へ向けて堂々と歩みを進め、その先に輝く素敵なものがあるというイメージでまとめました。

Friendsというタイトルは「大切なともだち」という意味を込めています。ギターサークルカノンの仲間はギターやその音楽が大好きというただそれだけで結ばれている仲間。仕事つながりとも違い、近所付き合いでもなく、年代の差すらも越えた、“しがらみ”とは無縁の純粋な仲間たちです。特に社会人になってからのこうした仲間は世の中のだれもが持っているわけではない、人生の中でも貴重な存在と言えるのではないのでしょうか。そういう仲間たちそれぞれが存分に発揮する純粋な力がギターサークルカノンを楽しく盛り上げ、演奏会やイベントを一つ一つ積み重ね、今日まで10年間もサークルを継続させ成長させてきました。そして今日ギターサークルカノンは指揮・指導する私から見てもうらやましいくらいに仲の良い素敵なコミュニティになりました。この曲はそんな「大切なともだちのために」弾く曲であり、「大切な友だちとともに」弾く曲であり、そして「大切なともだちを誇る」曲として完成しました。

長谷川 有天 2008年9月

8 パーセルのカノン (3声)* H. パーセル (イギリス)1659頃-1695

Moderato

1

2

3